

岡山県の地震

令和6年(2024年)11月

目 次

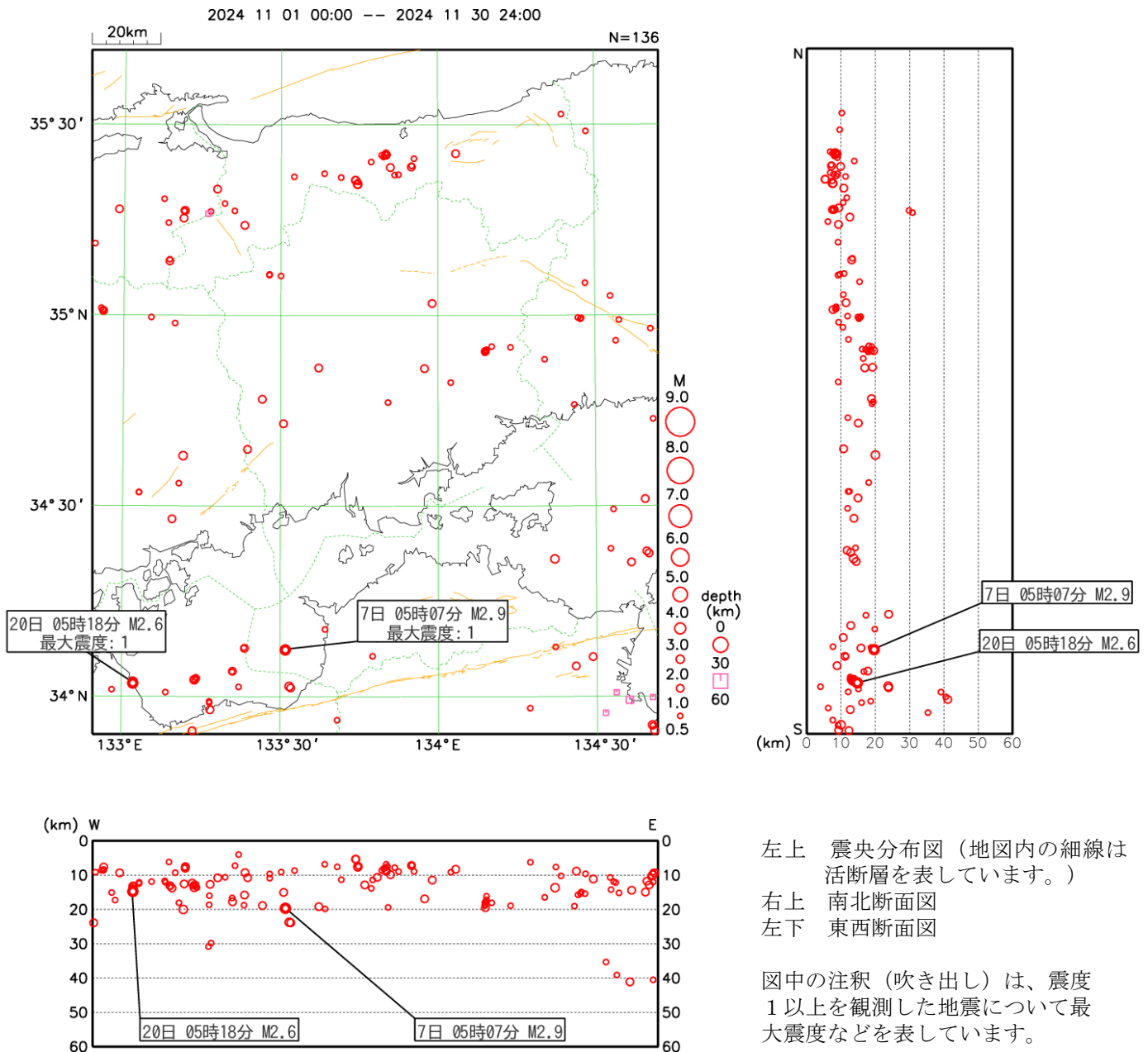
○岡山県及びその周辺の地震活動（11月）	
震央分布図及び断面図	… 1
概 況	… 1
岡山県において震度 1 以上を観測した地震の表	… 2
岡山県において震度 1 以上を観測した地震の震度分布図	… 3
○地震防災メモ No.227	
阪神・淡路大震災と震度観測の改善	… 4

- 「岡山県の地震」は、月 1 回発行し、岡山県及びその周辺の地震活動をお知らせするとともに、適宜、社会的関心の高い地震について解説します。また、「地震防災メモ」により地震、津波に対する防災知識の普及等に努め、皆様のお役に立つことを目的としています。
- この資料の震源要素、震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。
- 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。
また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

岡山地方気象台

岡山県及びその周辺の地震活動(11月)

震央分布図及び断面図



概況

11月の概況

- ・ 11月に震度 1 以上の揺れが観測された、上図の範囲内の地震は 2 回 (前月: 6 回) でした。
- ・ 岡山県で震度 1 以上の揺れが観測された地震は 11 月中は 1 回 (前月: 1 回) あり、そのうち震央が上図の範囲内の地震は 0 回、範囲外の地震は 1 回でした。

岡山県において震度1以上を観測した地震の表(11月)

2024年11月26日22時47分	石川県西方沖	37° 00.52' N	136° 23.85' E	7km	M6.6
2024年11月26日22時48分	石川県西方沖	37° 00.30' N	136° 25.82' E	3km	M5.0
----- 地点震度 -----					
岡山県	震度 2: 真庭市蒜山下福田*、真庭市蒜山上福田*、赤磐市上市、岡山南区浦安南町*				
	震度 1: 津山市新野東*、津山市阿波*、鏡野町上齋原*、真庭市禾津*、真庭市蒜山下和*				
	倉敷市新田、倉敷市真備町*、倉敷市児島小川町*、倉敷市水島北幸町*				
	倉敷市玉島阿賀崎*、倉敷市船穂町*、笠岡市笠岡*、備前市東片上*				
	和気町尺所*、和気町矢田*、早島町前潟*、里庄町里見*、瀬戸内市邑久町*				
	瀬戸内市長船町*、赤磐市松木*、浅口市金光町*、岡山中区浜*				
	岡山東区瀬戸町*、岡山東区西大寺南*				

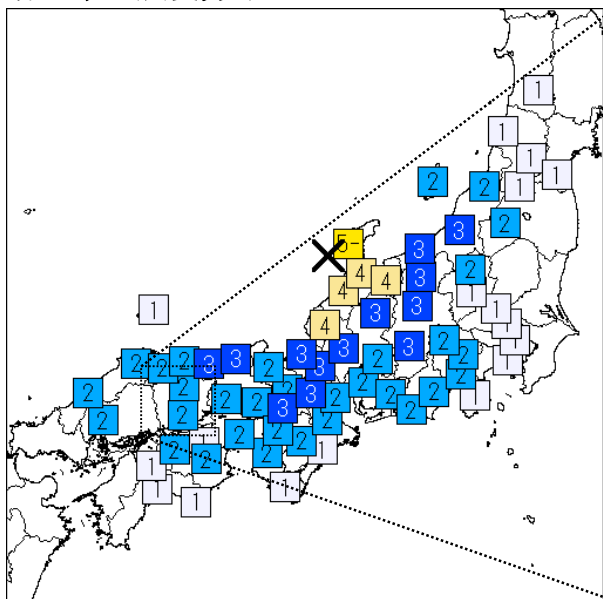
- 注) 1 内容は暫定値であり、後日再調査のうえ、修正されることがあります。
なお、地震データの確定値は『気象庁地震・火山月報(カタログ編)』に掲載されます。
- 2 地名に*印を付したものは、岡山県又は防災科学技術研究所の震度観測点によるものです。
なお、震度は気象庁震度階級表によるものです。
- 3 11月26日22時47分の地震と22時48分地震については、近接した地域でほぼ同時刻に発生した地震であるため震度の分離はできない。

岡山県において震度1以上を観測した地震の震度分布図(11月)

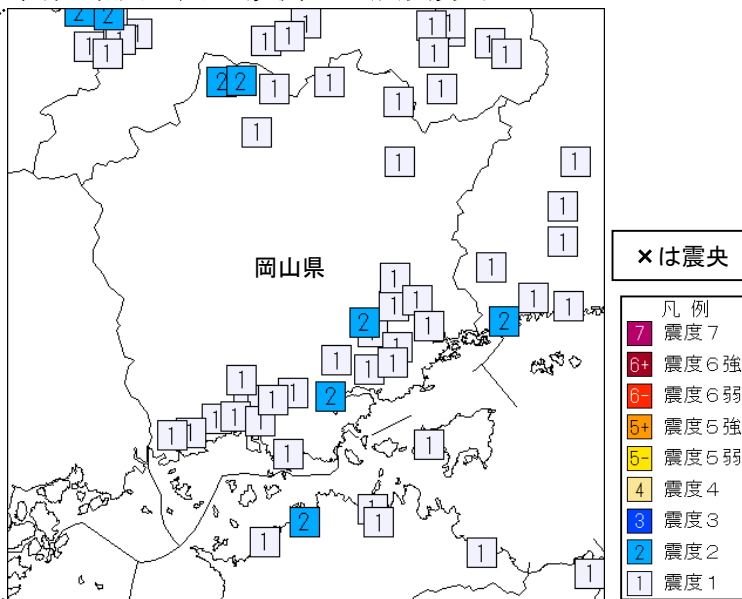
2024年11月26日22時47分 石川県西方沖の地震

2024年11月26日22時48分 石川県西方沖の地震

各地域の震度分布



岡山県及び周辺観測点の震度分布



<地震の概要>

26日22時47分 石川県西方沖の地震（深さ7km、M6.6）と26日22時48分 石川県西方沖の地震（深さ3km、M5.0）により、石川県輪島市、志賀町で震度5弱を観測したほか、東北・関東・東海・甲信越・北陸・近畿・中国・四国地方にかけて震度4～1を観測しました。岡山県では、真庭市、赤磐市、岡山市で震度2、津山市、鏡野町、倉敷市などで震度1を観測しました。

阪神・淡路大震災と震度観測の改善

◆阪神・淡路大震災（1995年）

阪神・淡路大震災（平成7年（1995年）兵庫県南部地震）から、令和7年1月17日で30年となります。

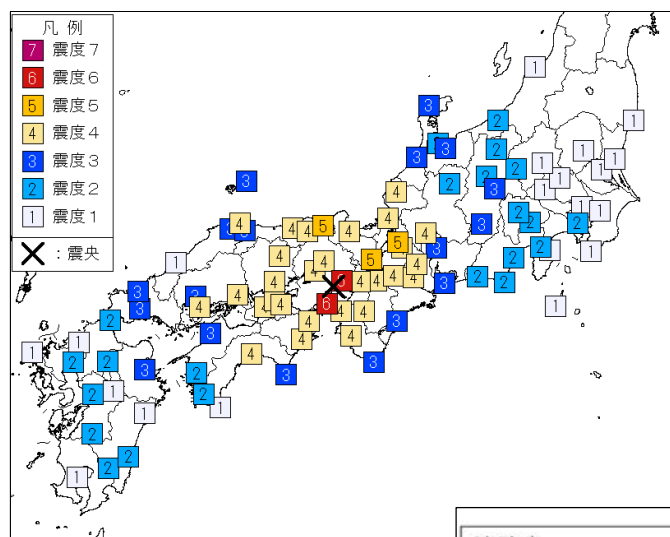
この地震（マグニチュード7.3）により、神戸と洲本で震度6を観測し、その後の気象庁の現地調査により、神戸市等の阪神淡路地域では震度7に達していたことが明らかになりました。岡山県では岡山市と津山市で震度4を観測しました。

この地震は都市部で発生した直下型の地震で、総務省消防庁の統計によると死者は6,434名、10万棟を超える建物が全壊するなど地震のゆれによる被害としては戦後最大となりました。また、我が国の地震防災対策に関する多くの課題が浮き彫りとなり、それと同時に、その後の社会の仕組みが大きく変わるきっかけとなりました。

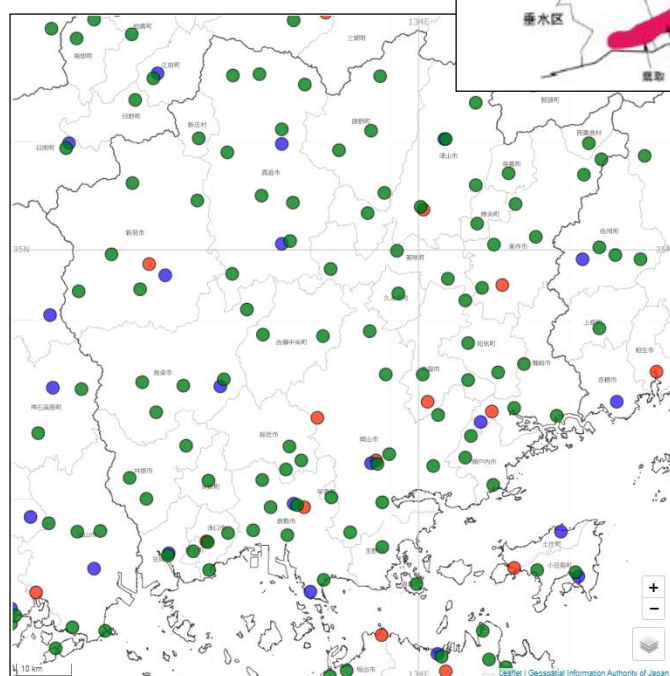
◆震度観測の改善

当時、「震度7」の判定は現地調査により決定することとなっていました。判定に時間を要したことから、気象庁では計測震度計により震度7まで自動観測できるよう観測方法を見直しました。

さらに、自治体でも独自に計測震度計を設置し、自らの初動防災対応に活用するようになりました。その結果、震度観測点の数は以前の約300箇所から約4,400箇所まで増えました。それらのデータを気象庁が一元的に発表することで、きめ細かい震度情報を発表できるようになりました。



1995年1月17日5時46分に発生
兵庫県南部地震の震度分布



岡山県内の震度観測点		102 地点
● 気象庁	9 地点	
● 地方自治体：岡山県	83 地点	
● 防災科学技術研究所	10 地点	

気象庁ホームページには「阪神・淡路大震災」特設サイトを設けています。当時を振り返るとともに、防災知識等に関する情報を掲載しています。

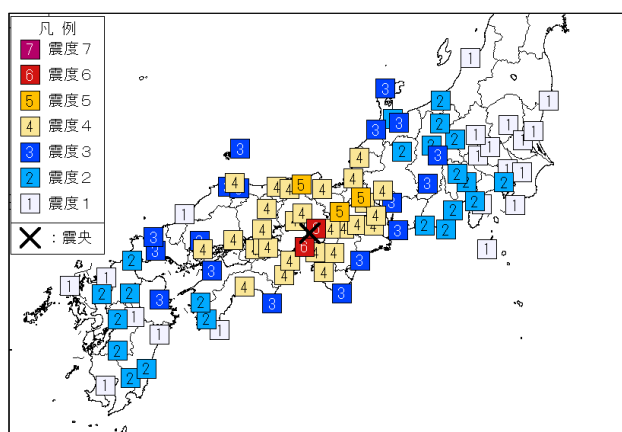
URL: https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/1995_01_17_hyogonanbu/index.html

阪神・淡路大震災と震度観測の改善

◆阪神・淡路大震災（1995年）

阪神・淡路大震災（平成7年（1995年）兵庫県南部地震）から、令和7年1月17日で30年となります。この地震（マグニチュード7.3）により、神戸と洲本で震度6を観測し、その後の気象庁の現地調査により、神戸市等の阪神淡路地域では震度7に達していたことが明らかになりました。

この地震は都市部で発生した直下型の地震で、総務省消防庁の統計によると死者は6,434名、10万棟を超える建物が全壊するなど地震のゆれによる被害としては戦後最大となりました。また、我が国の地震防災対策に関する多くの課題が浮き彫りとなり、それと同時に、その後の社会の仕組みが大きく変わるきっかけとなりました。



1995年1月17日5時46分に発生した
兵庫県南部地震の震度分布

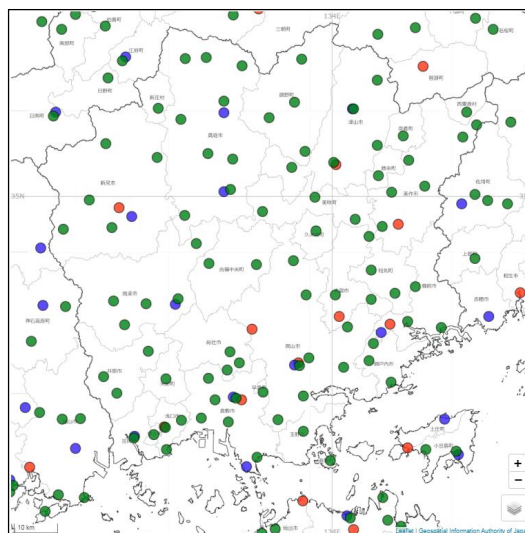


現地調査による震度7の分布

◆震度観測の改善

当時、「震度7」の判定は現地調査により決定することとなっていたが、判定に時間を要したことから、気象庁では計測震度計により震度7まで自動観測できるよう観測方法を見直した。

さらに、自治体でも独自に計測震度計を設置し、自らの初動防災対応に活用するようになった。その結果、震度観測点の数は以前の約300箇所から約4,400箇所まで増えました。それらのデータを気象庁が一元的に発表することで、きめ細かい震度情報を発表できるようになりました。



岡山県内の震度観測点	102 地点
● 気象庁	9 地点
● 地方自治体：岡山県	83 地点
● 防災科学技術研究所	10 地点

気象庁ホームページに「阪神・淡路大震災」を振り返る特設サイトを設けています。

URL：https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/1995_01_17_hyogonambu/index.html